

激励のことば（入学式 式辞にかえて）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

城西川越中学校を代表して、皆さんの入学を心から歓迎し、激励の言葉を贈ります。例年ですと、ここはお祝いの言葉です。しかし、突然、私たちの前に現れた新型コロナウイルスによって、生活が大きく変わったことを踏まえて、「激励の言葉」とさせていただきます。今年度は、入学式ができないばかりか、皆さんが登校もできないこの状況がとても残念です。

私は、皆さんが生まれるはるか前から教員生活をし、すでに42年が過ぎました。突然現れた新型コロナウイルスが引き起こすことへの対応は、教員生活の中で、初めて経験するものばかりです。感染の広がりや、高齢の私にとって、恐怖と不安でしかありません。皆さんも不安といらだちでいたたまれないことと思います。そんな中でも、時間は、刻一刻と過ぎ去り、私たちを待ってはくれません。時間はすべての人々にとって平等に過ぎていきます。過ぎてしまった時間は、取り戻すことはできません。学校に来られない今、大切な時間を無駄にはいけないと思い、今まで以上に1分1秒を大切に、今、自分に何ができるかを考えてはどうでしょうか。新型コロナウイルスで亡くなった方は、すでに全世界で80,000人を超えています。アメリカでは、すでに1万人を超えています。1千人を超えてからたった11日の間に10倍以上に増したのです。とても恐ろしいことです。本校では、3月2日から休校になり、城西川越中学校の卒業式は、形を変えて行うどころか、中学3年生は、中学最後の晴れの舞台に登校さえできず、結局、中止になってしまいました。しかし、恐怖や不安の中で、泣き言や悪口ばかり言っても何の解決にもなりません。今の社会や大人の人たちの批判をするのは簡単です。責任を全部人になすり付けることも簡単ですが、私たちは、今見えない敵と戦っているのです。これは、本当に難しいことです。見えないから実感がわからないのです。だから本当に怖いのです。新型コロナウイルスにかかっても仕方ないとは言えないのです。今は、一人ひとりができることをしっかりと丁寧に行っていくことが最も大切だと私は思います。ここは力を合わせて、知恵を出し合って、耐えてがんばるのです。世界中には日本国内をふくめ多くの、優秀なそして勇気のある医師や科学者がいます。そして、その方々は、日々努力し、研究を続けています。その方々が頼りです。ですから、私たちはできることをしましょう。「手洗い」「うがい」「咳エチケット」は、すべての人が今からできることです。

今年度は、この入学式の中止を含め、学校対応の一つ一つが初めてのことばかりで、皆さんには、たいへん迷惑をかけました。いまだに収束のきざしは見えず、これからの中学校生活では、予定を立てても、変更になることが多いことと思いますが、どうか不安やあせり、イライラをため込まない工夫をして、心豊かな中学校生活を築きあげていくことを考えてください。私たちの新型コロナウイルスへの対応の良い、悪いは、この目に見えない未知なるものの猛威がおさまった後にわかることでしょう。このことは、自治体や政府の対応についても同じようなことが言えます。私たち城西川越中学校の教職員一同は、社会情勢、社会状

況を見ながら、今できる最も良い方法をとっていきます。このことはぜひわかってください。皆さんの信頼を得るためにも、私たちは、全力で皆さんを支えています。そして、人生において、最も大事な大人への階段を登り始めた皆さんに、できるだけ早く学校という場所で、共に学べる日が来ることを心から願っています。

さて、新入生の皆さんにとって、城西川越に入学するまでの道のりはさまざま、今の思いもまた一人ひとり違うことと思います。皆さんは、中学3年間、そしてそれに続く高校3年間をどのように過ごそうと思っていますか。こんなにきびしい状況ですから、より一層皆さんには、一人ひとりが自分の個性を発見し、その個性を充実した中学校生活の中で磨き上げてほしいと思います。

国から、「緊急事態宣言」が出された7都府県はきわめて厳しい状況です。この混乱の真ただ中にいる私たちは、歴史の生き証人として、この事態を目に焼き付け、記憶と記録に努めていく責任があると思います。私がここで、歴史という言葉を持ち出したのは、1938年生まれの英国人ジャーナリストのヘンリー・S・ストークス氏の著作に触れたことが大きく影響しています。著作内容の一つひとつには、ここでは触れませんが、まず、ここで、みなさんによく考えてほしいのです。人が歴史について書けば、書いた人の今の思いや感情が作用するのは当たり前のことですね。そこに書かれた数字や数値が事実としても、伝え方ひとつで、伝え聞いた人の受け取り方が大きく変わるのもまた事実です。皆さんは、印象操作などという言葉を知っていますか。書いた人が、読んだ人にこうしてほしいという方向に引き込む方法です。ネット社会と言われるこの時代に生きていく上では、ネット上の情報が役立つこともわかりますが、フェイクニュース（うそのニュース）などにはだまされてはいけません。だまされないようにするのは、とても難しいことです。この世にあふれるさまざまな情報に左右されない生き方が絶対に必要だと私は考えます。そのためには、それ相当の覚悟が必要です。本当の知性と冷静な判断力が求められます。自分の眼と心と頭をきたえ上げなければいけないのです。受け取る側（読む人、見る人）にすべてはかかってくるのです。

東日本大震災の処理は、まだ終わってはいません。風化（記憶や印象が月日とともに薄れていくこと）しかかって報道されないことがたくさんあり、東京や埼玉に住む私たちは自分のことに追われなかなか目を向けられません。そうであるならば、少なくとも私たちは、東日本大震災を教訓（教えさとすこと、教え）にし、今日の前にある目に見えないこの新型コロナウイルスという未知なるものと向かいあい、身のまわりに起こっている出来事や自分の住んでいる地域の様子に注意をむけ、気づいたことを書きとめることも日本国民として、県民、都民として、とても重要なことだと思います。それは、皆さんが歴史を築くことであり、ひいては、社会貢献（社会のためになるように行動をすること）につながることもあるのです。むだに時間を使ってはいけません。今自分のできることを確実にしていきましょう。そういう姿勢が、みなさん自身の中学校生活の道をひらき、自分の未来を創っていくことになるのだと思います。

新型コロナウイルスとの戦いは、始まったばかりですが、この戦いには絶対に勝たなければなりません。人類の歴史は、感染症との戦いと言っても言い過ぎではありません。人類は、「ペスト」や「コレラ」にも打ち勝ってきました。どんな時代にも、課題はあります。課題のない時代など存在しないのです。近代化の進んだ明治には明治の課題があり、それらは、国民が力を合わせて克服してきました。昭和20年（1945年）敗戦後の日本には、主権（国として認められないこと）さえなく、それも国民の力で取り戻してきたのです。公害で汚染された時もこの日本にはありました。しかし、それらも日本国民は知恵を出し合って克服しました。人類、とりわけ日本人は、そのたびに、知恵を出し合って難題、難問を克服してきたのです。繰り返します。日本の未来は皆さんが創っていくのです。お父さんやお母さんがこれまで手塩にかけて育てあげてきた皆さんは、日本を背負って立つ大事な宝なのです。そんな皆さんの挑戦が今こうして始まるのです。

私たち教職員の本当の仕事は、皆さんを大学に入れることではありません。10年後、20年後に、みなさんが、一人で生きていける、そういう人間になる手助けをすることです。これから始まる、高校生活へとつながる中学校生活は、人生の中で最も重要な、そして、貴重な3年間であり、皆さんの心と体、そして、脳が大きく育つ重要な3年間です。しかし、生きることは楽しいことばかりではなく、つらくて苦しいことがたくさんあります。（もうすでに皆さんは、入学前に経験してしまいましたが、）だからこそ、私たちは、学校という場を何としても夢を持てる、かけがえのない場にしていきたいのです。

あらためて、入学おめでとうございます。この難局に対し、力を合わせてみんなで生き抜きましょう。

令和2年4月13日

城西川越中学校 校長 田部井勇二